教会創立６０年記念事業

# 新 教 会 堂 建 築

## 建築献金のお願い

岩の上に教会を建てる

－ 腰に手ぬぐい・他者のための教会を目指して －

日本バプテスト連盟

東八幡キリスト教会

# ごあいさつ ― 建築献金に関するお願い

東八幡キリスト教会
牧　師　奥田知志

東八幡キリスト教会は、２０１５年に創立６０年を迎えます。
これを記念し与えられた使命（ミッション）に応答するために新教会堂建築を計画いたしました。
私たちは、これまでの６０年の歩みに伴い給うた主イエス・キリストと東八幡キリスト教会における多くの出会いに感謝します。
以下は、建築計画と献金のお願いです。どうぞ、この使命（ミッション）を果たすことがでるようお祈り下されば幸いです。

【建築主題聖句】

「それで、わたしのこれらの言葉を聞いて行うものを、岩の上に自分の家を建てた賢い人に比べることができよう。雨が降り、洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけても、倒れることはない。岩を土台としているからである」

マタイによる福音書７章 24～26 節

---

【建築テーマ】

**「岩の上に教会を建てる―腰に手ぬぐい・他者のための教会を目指して」**

東八幡キリスト教会は、使命（ミッション）に生きる教会でありたいと思います。
私たちの使命（ミッション）はこれです。

1　みことばに生きる
2　祈りに生きる
3　腰に手ぬぐいをしイエスに従う―隣人に仕える教会
4　まちの教会となる―開かれた教会
5　すべての人と家族になる―神の赦しと招きによる家族

---

## 東八幡キリスト教会の歩み

東八幡キリスト教会は、母教会である八幡バプテスト教会により 1949 年八幡市（当時）東部で開拓伝道が開始され 1955 年に教会組織をいたしました。その後現在の教会堂が米国南部バプテスト連盟をはじめ多くの方々の献金をいただき完成いたしました。現在の教会堂において約６０年にわたり宣教活動をしてまいりました。しかし教会堂の傷みは激しく、何よりも与えられた使命（ミッション）を果たすには少々手狭となりました。私たちは、現在の教会堂を神様にお返しし新しい教会堂建築に向かうこととしました。

## 東八幡キリスト教会の祈り

東八幡キリスト教会が掲げる建築テーマは「岩の上に教会を建てる―腰に手ぬぐい・他者のための教会を目指して」です。「岩の上に建てる」とは「みことばを聞いて行う」ことだとイエスは語られます（マタイ福音書７章）。私たちは、そのような教会の群れになりたいと祈ってきました。主イエス・キリストに従う時、嵐は必然です。嵐の日、教会の土台が明らかになります。私たちは、みことばだけが揺るがない土台であったことを告白します。私たちは、人の言葉に拠って立ちません。みことばに聴従します。最も小さくされた者の姿を以って私たちの前に立たれたイエス・キリストの声に問われます。みことばを聴いた者は行う者へと復活させられます。

### 東八幡キリスト教会は、恵みへの応答にもがく教会です。

私たちは「他者のための教会」を目指します。新教会堂は主に従い、隣人に仕えるために建築されます。恵みを自分のものだけにするのではなく「行って隣人になりなさい」（ルカ福音書10章）とのご命令に応える教会となります。

「他者のための教会」は傲慢な言葉に聞こえるかもしれません。しかし教会はキリストのからだです。そしてイエス・キリストは「他者のために傷ついた神―他人は救ったが自分は救わない神」（マルコ福音書15章）でありました。私たちは、この事実を重く受け止めます。確かに「他者のため」に生きることは困難です。いや、本来人間にはできないのだと思います。にも拘わらず、私たちの罪を贖って下さるキリストが「隣人となりなさい」（ルカ福音書10章）と召してくださるのであれば「不信仰なわたしを、お助けください」（マルコ福音書9章）と祈りつつ、「お言葉ですからやってみましょう」（ルカ福音書５章）と主に従いたいと思います。新しい教会堂は共に生きる場所となります。それ故に傷つく場所―十字架の場所となります。「その打たれた傷によって私たちは癒された」（イザヤ53章）を体現する場となります。

どうぞ、東八幡キリスト教会の使命（ミッション）を祈りに覚えてお支えください。

東八幡キリスト教会の使命として多くの教会員が参加したホームレスの方々の追悼集会

# 献金目標額　1,000 万円
## ー建築特別献金を開始します！ー

【建築予算】総額：1 億 5,000 万円

<table>
<tr><td rowspan="4">総建築費用<br>1 億 5,000 万円</td><td rowspan="3">自己資金<br>1 億円</td><td>建築特別献金：1,000 万円</td><td rowspan="3">今回の目標額</td></tr>
<tr><td>教会内一時献金：5,000 万円<br>2014年度までに献金(現在4,000万円達成)</td></tr>
<tr><td>これまでの積立金：4,000 万円</td></tr>
<tr><td colspan="2">借入金：5,000 万円</td></tr>
</table>

◇　建築特別献金の方法について

【建築特別献金の時期】

2013 年 1 月から 2015 年３月末まで

ゆうちょ銀行振替口座
　　口座番号　０１７４０－０－３５８７６
　　加入者名　東八幡キリスト教会

※ ゆうちょ銀行振替口座以外での献金をご希望の方は下記までご連絡ください
（連絡先：　東八幡キリスト教会　☎（093）651-6669 ）

## 新しい礼拝堂内の風景

◆天井のスリットから差し込む光は、神さまに祈りを捧げる場所である礼拝堂を厳かな空間にしてくれます

◆「神は低みに下る」を礼拝堂の設計にも反映し、講壇を置かず、また、バプテストリー（バプテスマの水槽）は、床下に設置します

◆礼拝堂は、ホワイエ（通路）とホールまでを含んだ広さに拡張が可能です（一五〇人～三〇〇人収容可能）

## 玄関（エントランス）から見た教会堂内の風景

◆ホワイエ（通路）の右奥側が礼拝堂、左奥側がホールとなります

◆教会施設は一階のみのワンフロアーです

◆段差のないバリアフリー構造です

# 新しい教会堂ついて
# ―教会堂建築に関するコンセプトと建築概要―

教会堂建築は信仰告白です。今日の社会においてキリスト者が何を信じ、どのように生きようとしているのか、そして誰と生きるのかの表明です。そのために何を選び、何を断念するのかを表すことだと思います。
東八幡キリスト教会の信仰を表明するものとして新教会堂の建築に取り組みます。

**その1　無縁の時代にインマヌエル（神われらと共にいます）の事実を示す教会堂**

「無縁社会」と呼ばれて久しい今日、私たちは新教会堂を通して「インマヌエル（神われらと共にいます）」（マタイ福音書１章）をこの世界に伝えたいと思います。どのような時代、どのような状況になったとしても主イエス・キリストが共にいてくださる故に、私たちは共に生きるという希望を持ちます。

「ふたりまたは三人が、わたしの名によって集まっている所には、わたしもその中にいるのである」（マタイ福音書18章）とイエス・キリストは語られました。

イエス・キリストがおられるところに、交わりが生まれます。教会とは、共に生きることであり交わりです。神は「人が一人でいるのは良くない」（創世記2章）と宣言されました。東八幡キリスト教会は、無縁の時代に「インマヌエル＝神われらと共にいます」の事実に生きる共同体を形成します。

**その2　教会は「神の家」―「献堂する」ということ**

「わたしの家は、すべての国民の祈りの家ととなえられるべきである」（マルコ福音書11章）。教会は「わたし（神）の家」です。新教会堂は私たちの「モノ」ではありません。私たちは教会を私物化しません。しかも、ここには何ら差別があってはなりません。

すべての人のために教会堂は建てられます。教会（エクレシア）は、神に呼び集められた者の群れです。集められた者たちは、神の前に黙し祈りを献げ互いに執り成します。

**その3　岩の上に立つ教会を建てます―みことばを聴いて行う教会**

「わたし（イエス）のこれらの言葉を聞いて行う」教会が、岩の上の教会となれます。

みことばを聴いた人は、行う人となります。私たちは、主の言葉への応答に生きたいと思います。

**その4　東八幡キリスト教会の5つの使命を遂行するための教会**

私たちは、２００９年３月２９日に教会総会にて決議した「東八幡キリスト教会の使命（ミッション）」を果たすために新教会堂を建築します。（この冊子の冒頭をご覧ください）

**その5　恵みへの感謝と信仰の継承―創立100年に向けての準備**

新教会堂は終の棲家ではありません。私たちは地上を旅する群れです。私たちは朽ちるもの（見えるもの）と朽ちないもの（見えないもの）（コリント第一15章、コリント第二4章）を峻別したいと思います。私たちの旅の終着点は御国です。かの日、旅の終わり、私たちはすべての人々と再会します。

創立１００年に向け次の世代が信仰を継承し、さらなる新教会堂に向けて動き出すことになるでしょう。かつてそうであったように今回も教会堂の建築は信仰継承の場となります。

【建築概要】

① 敷地面積　　２００坪（第一種住宅地、　建ぺい率６０％、　容積率２００％）
② 延床面積　　４９９㎡（１階教会堂：３７６㎡　、２階　牧師館：１２３㎡）
③ 建築予算　　1億5,000万円
④ 設　　計　　手塚建築研究所（東京）
⑤ 施　　工　　現在選定中
⑥ 工　　期　　２０１３年４月　～　２０１４年３月

礼拝堂内正面

## 設計者に提示した教会堂建築に対するイメージ「二つあるがひとつ」

新しい教会堂はイエス・キリストを示すものでありたいと思います。例えば十字架と復活です。十字架という絶望と死の出来事が同時に復活という新しいいのちの始まりであったと聖書は言います。

５世紀のカルケドン公会議はイエス・キリストを「真の神であり、真の人である」と告白しました。私たちは、このようにキリスト教が元来持っている二つの事柄、あるいは対立しているような二つの事柄がイエス・キリストにおいて一つとなるという構造に注目し「二つあるがひとつ」を設計のテーマにしました。

イエス・キリストは和解をもたらす方です。「二つあるがひとつ」というあり方を表す教会堂は、断絶と孤独、対立と傲慢が支配する今日の世界において、和解の希望を示すものとなることを願っています。

しかし「二つあるがひとつ」は二元論ではありません。二元論は、教会と社会、この世とあの世、心の問題と社会の問題、教会の内外などを分離する考え方です。このような考え方は、結局のところ教会を「聖なる領域」として世界と分離してしまうこととなります。私たちは二つのものが無関係に存在しているのではなく相互に本質的に関係しあっており、ひとつの事柄であると捉えます。

ホールから見た礼拝堂

## 新教会堂に対する全体のイメージ 「二つあるがひとつ」

**神のことばと人のことば**

■ 神のことば⇒神のことばへの聴従、教会の中心は礼拝堂（神のことばが宣べられる場所）

■ 人のことば⇒交わりを大事に、ことばづくり、ホールや分級室、施設

---

**光と闇（明るさと暗さ）**

■ 光⇒闇に勝つ光、快活、明るい

■ 闇⇒闇の中に光を見る、闇の中に光りを見出す、静寂

---

**自由と服従**

■ 自由⇒風のイメージ（風はギリシャ語でプネウマ：神の霊）、自由になる場所

■ 服従⇒断念を伴う、凪のイメージ、自分教の克服、主にある自由へ

---

**低みと高み**

■ 低み⇒神のことばは低みに宿る（人間の場所）、下る神、共におられる神

■ 高み⇒神の栄光（神の場所）、人間が相対化される場所、感謝を献げる場所

---

**垂直と水平**

■ 垂直⇒神との関係、復活、静寂、神の前に独り立つ、一人で祈る、神への奉仕、恵みへの応答

■ 水平⇒人との関係、十字架、共に生きる、人の温もり、他者のための教会、 駆け込み教会
「助けて」と言える場、いのち、分かち合う、居場所

---

**自然と人為**

■ 自然⇒緑、木の香り、四季を感じる

■ 人為⇒調光、外界からの遮断、非日常性を大事に

---

**賛美と沈黙**

■ 賛美⇒賛美の声が響き渡る、音響設計

■ 沈黙⇒沈黙の空間

---

**受容と派遣**

■ 受容⇒教会は、すべての人をそのまま受け入れる、入口が広い

■ 派遣⇒教会は、すべての人をその使命の場所へと派遣する、出口が広い

---

**無駄と効率**

■ 無駄⇒一見無駄な空間の大切さ、フレキシビリティー、ゆとり

■ 効率⇒より多くの機能を果たす

---

**新と旧**

■ 新⇒新しい一歩としての新教会堂、次の60年へ、後継者育成

■ 旧⇒現在の会堂からの引き継ぎ、歴史の継承

# 建築家　手塚夫妻との出会い

中央で腕組みをしている青色のＴシャツの方が
手塚貴晴さん

新教会堂建築の話しが進んでいく中で設計をどなたにお願いするかは大問題でした。その折、ある教会員から「奥田牧師、先日のNHK見られましたか？」との問い合わせがありました。それはNHK総合「プロフェッショナル仕事の流儀・第１８４回『ふたりが信じれば、大胆になれる―建築家　手塚貴晴・手塚由比」という番組でした。

すぐに録画を取り寄せ見たところ多くの教会員から「ああ、このお二人ではないか」という声が上がりました。すぐに連絡を取り、建築委員会のメンバーと共に東京の事務所をお訪ねしました。二時間以上マシンガンのように話し合ったことを覚えています。その時の話題の一つが「低み」と「軒」でありました。思いは募るものの「有名建築家が小さな教会の建築を引き受けてくださるだろうか」という心配もありました。

こちらが躊躇していると手塚夫妻の方から東八幡キリスト教会を訪問したいとの連絡が入り、二人の子どもさんとスタッフの瀧さん（後の担当）を連れ前日から北九州に入り、朝から夕方まで東八幡キリスト教会の主日プログラムなど丸一日じっくりと見てくださいました。そして、その後提案されたのが現在の設計です。

実は、それはこちらの種々の要望（たとえば小さな部屋がたくさん必要など）を凌駕するものでした。しかし「そうだこれが東八幡キリスト教会だ」と皆が思えるデザインでした。

私たちは、この出会いを神様が備えてくださったものだと感謝しています。いよいよ建築がはじまります。「打ち合わせが楽しい」。打ち合わせの度に教会員から声が出ます。

きっと素敵な教会堂になります。手塚さんよろしくお願いします。

# 設計者紹介

設計担当　手塚建築研究所
手塚貴晴・由比より

一人でも多くの人々と共に生きようとされている東八幡キリスト教会の思想に感銘を覚え、我々は今回の新教会堂建設に関わらせて頂くことになりました。新しい教会堂の周りには大きな軒下空間を巡らせました。

教会堂という神聖な空間と俗世との間に軒という誰もが足を踏み入れられやすい場を設け、一人でも多くの人々を神の家に受け入れたいという考えです。軒下には食事を囲んだ語らいと学びの場を設け、教会に通う方々が互いに支え合い高め合う場を作っています。

礼拝堂は天空からの光によってのみ彩られる背の高いながらも飾りのない素朴な空間です。何も加えなくとも天空からの光そのものに十分な豊かさと恵みが含まれているという考えです。構造は木で作ります。日本の気候風土の中で注意深く作られた木構造が百年千年の時を超えることは、現存する歴史的建造物が証明しています。新教会堂が長い時代を超え、多くの人々、特に寄る辺なき人々の隣り人となり続けることを願っています。

手塚貴晴
（てづか・たかはる／左）
1964 年東京都生まれ
1987 年武蔵工業大学卒業
1990 年ペンシルバニア大学大学院修了
1990-1994 年リチャード・ロジャース・パートナーシップ・ロンドン
1994 年手塚由比と手塚建築研究所を共同設立
2005～06 年ザルツブルグ・サマーアカデミー教授
2006 年 UC バークレー客員教授
2009 年東京都市大学教授

手塚由比
（てづか・ゆい／右）
1969 年神奈川県生まれ
1992 年武蔵工業大学工学部建築学科卒業
1992～93 ロンドン大学バートレット校（ロン・ヘロンに師事）
1994 年手塚貴晴と手塚建築研究所を共同設立
2006 年ザルツブルグ・サマーアカデミー教授
2006 年 UC バークレー客員教授
現在、東海大学非常勤講師

## 主な受賞歴
吉岡賞　日本建築家協会新人賞　日本建築学会賞
日本建築家協会賞　AR prize　グッドデザイン金賞　その他

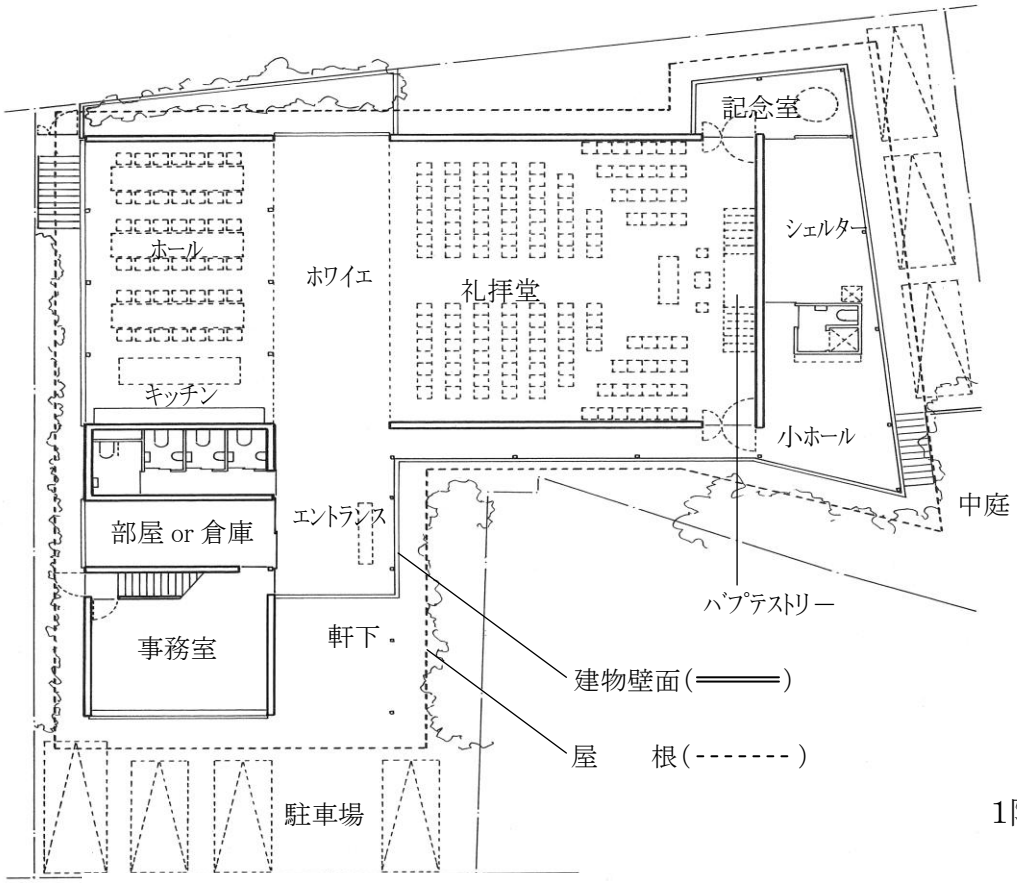
## 主な作品
南三陸町あさひ幼稚園　ふじようちえん
越後松之山「森の学校」キョロロ　屋根の家その他

## 主な出演
ＮＨＫ「プロフェッショナル仕事の流儀」（2012 年 6 月 4 日放送）
ＮＨＫ　「トップランナー 」（2006 年 5 月 14 日放送）
ＭＢＳ「情熱大陸」（2003 年 11 月 30 日放送）　等出演

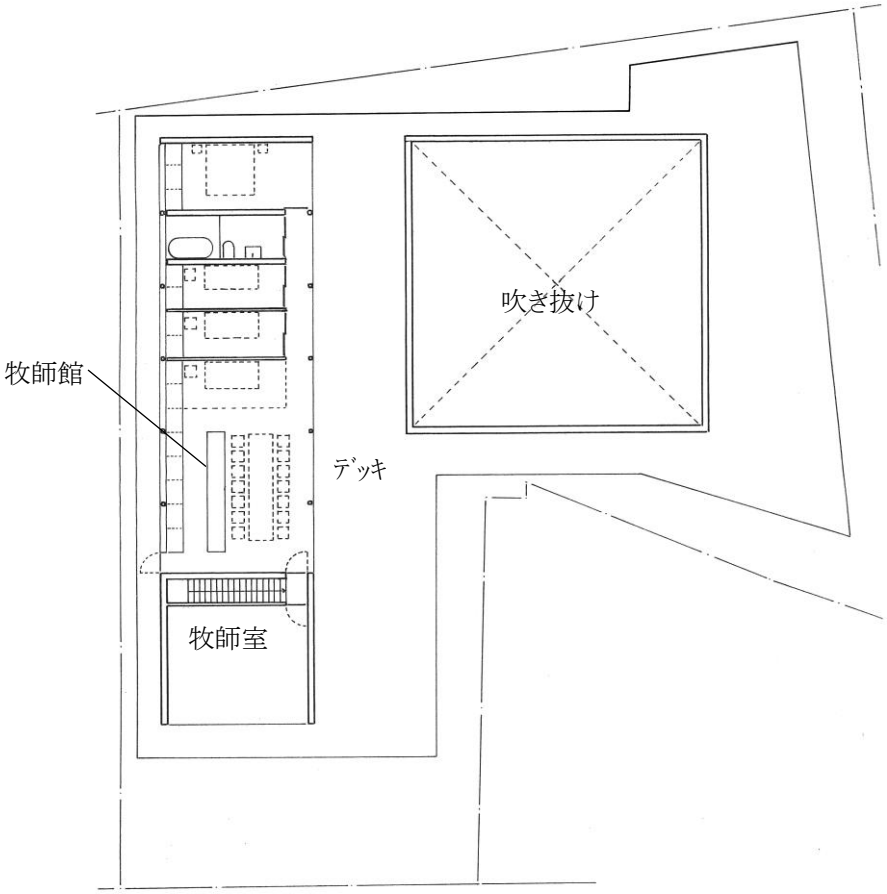
## 手塚建築研究所ホームページ
http://www.tezuka-arch.com

木田勝久／ＦＯＴＯＴＥＣＡ

# 新教会堂の設計図




1階平面図




敷地面積:　694 ㎡
延床面積:1 階　376 ㎡
2 階　123 ㎡
合計:　499 ㎡

2階平面図

# 新教会堂の特徴

## ①　高みと低み、150人の礼拝堂

礼拝堂は講壇部分を設けずフラットにしました。さらに天井を８メートルとして、トップライトにて自然光を取り入れました。現在の礼拝堂は８０名定員でしたが、新しい礼拝堂は定員を１５０名としました。ホワイエ、ホールまで拡張すると、最大３００名の礼拝が可能となりました。

## ②　段差のないワンフロアーの教会

教会部分は、段差のないワンフロアーとしました。いわゆる一段上がった講壇部分もなくしました。「そこにはなんらの差別もない」（ローマ３章の言葉）を表しました。

## ③　低みに下るバプテストリー

神の言葉が低みに下ったことを表すために、教会の最も低いところ、すなわち礼拝堂前方の床下をバプテストリーとしました。悔い改めは、低みに立って見直すことであり、イエス・キリストに従い生きることは、今までの生き方、生きてきた場所を変えることであると考えました。

## ④　礼拝堂からホール（食堂）へ

礼拝した後に、そのままホール（食堂）にて共食の時を持てるように礼拝堂とホール（食堂）を直結しました。ホールにて祈祷会、聖書の学びなどを行います。

## ⑤　軒のある教会

会堂をおおうように軒をつくりました。特にエントランス前玄関には軒下スペースが大きく取られ、「外」と「内」の中間的空間を大事にしました。

## ⑥　シェルター（緊急避難場所）

教会内にシェルターを設置しました。これまで東八幡キリスト教会は、困窮状態の方々に宿泊等の支援をできる限り行ってきました。今回は最大６名が寝泊まりできる部屋とシャワー室、洗濯室などを設置しました。

## ⑦　記念室―引き受けの無かった兄弟姉妹の場所としても

礼拝堂と記念室が結ばれています。生者と死者の主であるイエス・キリストの元で召された神の家族を覚え礼拝をします。

これまで東八幡キリスト教会は、残念ながら家族の引き取りの無かったご遺骨を引き受けてきました。今回の記念室には、分譲用に加え、誰でも入れる場所を確保しました。

# 新教会堂建築への想い

東 八 幡 キリスト教 会
建築委員長　菊岡　義修

建築委員長として「東八幡キリスト教会創立６０年記念事業　新教会堂建築」に関わられたことに感謝します。

この東八幡キリスト教会でクリスチャンとなった私は、多くの方々とここで出会いました。牧師先生方、教会員、また教会に来られる様々な方たちです。教会とは「主イエス・キリスト」により人と出会い、喜びや悲しみを共有するところです。時には喧嘩したり、泣いたり落ち込むこともありますがくよくよしません。私たちは一緒に泣いて下さる・苦しんで下さる「主イエス・キリストが、いつも伴にいて下さる」このことを信じているからです。

今回の建築に関してもすばらしい出会いがありました。それは新教会堂を設計していただいている手塚ご夫妻（手塚ご一家）・瀧さんとの出会いです。まだ何も決まっていないのに、手塚さんたちは我々の教会に来て礼拝を共にしてくださいました。一緒にうどんを食べてくださいました。手塚さんは、東八幡キリスト教会が希望する新教会堂を設計しようと思い、日曜日を共に過ごされました。その後、新教会堂模型が出来上がりました。その模型を見た私たちは、そのすばらしさに驚き、興奮したことを思い出します。

今なお、手塚さんたちとの話し合いは続いています。新教会堂が出来上がるまで続くでしょう。気心の知れた仲間のように言いたいことを言います。それを受けた手塚さんからも「できません」「できます」「何とかします」と答えが返ってきます。

手塚さんたちとの出会いも、教会＝主イエス・キリストのお導きと信じています。

私たちの願いは、まだ見ぬ方々とこの東八幡キリスト教会新教会堂で、お会いすることです。どうか皆様、私たちの願いのために、お祈りください。

神様、どうか願いが叶いますように。しかし、わが思いではなく、みこころのままにして下さい。　　アーメン

現在の教会堂

私たち東八幡キリスト教会は

新しい教会堂を建築します

使命（ミッション）に生きるために

日本バプテスト連盟

# 東 八 幡 キリスト教 会

検 索

■ 建築特別献金の振込み口座

ゆうちょ銀行振替口座

口座番号 01740-0-35876 加入者名 東八幡キリスト教会

〒805－0015 北九州市八幡東区荒生田 2 丁目 1 番 40

☎ FAX (093)651-6669 Email: higashiyahata.ch.1955@nifty.com

牧 師:奥田 知志 協働牧師:藤田 英彦 森松 長生 牧野 新